# 2020年度神奈川公立高校共通選抜

# 社会入試分析

～入試ではこう出る!!～

【出題形式】
問１：世界地理
問２：日本地理
問３：歴史（古代～近世）
問４：歴史（近現代）
問５：公民（政治分野）
問６：公民（経済・国際分野）
**問７：「地歴公」融合問題** NEW！

## 地・歴・公の融合問題が出題。

出題の形式が例年の大問数６（地理×2、歴史×2、公民×2）から大問数７に変更。最後の大問は**「地理・歴史・公民」の融合問題**が出題された。全体の設問数は 34 問から 31 問に減少したが、正誤判断、資料の読み取り、照合などの時間を要する設問も散見されたため、設問数減による恩恵はそれほどなかったと思われる。出題されている問題の形式としては昨年と大きな変化はなく、割合の考え方を必要とする問題や世界史に関する問題などは今後のスタンダードとなる可能性がある。

## 地理：６つから正しいものを３つ選ぶ 【出題例 大問 1(イ)】

(イ) 次の文ａ～ｆのうち，表１～表３について正しく説明したものの組み合わせとして最も適するものを，あとの１～８の中から一つ選び，その番号を答えなさい。

ａ　表１によると，都市イを首都とする国でキリスト教を信仰している人びとの数は，その国の人口の５割を下回っている。
ｂ　表１によると，「世界全体」で仏教を信仰している人びとの数は，都市アを首都とする国でヒンドゥー教を信仰している人びとの数より少ない。
ｃ　表２によると，都市ウを首都とする国の鉄鉱石の生産量が「世界計」に占める割合は，10％を下回っている。
ｄ　表３によると，工業製品と鉱産物の合計額が「総額」に占める割合は，10％を上回っている。
ｅ　表２をもとに，鉄鉱石の生産量の割合を国ごとに比較するときには，円グラフよりも折れ線グラフが適している。
ｆ　表３をもとに，都市ウを首都とする国からの輸出額の品目ごとの割合を示すときには，折れ線グラフよりも円グラフが適している。

1. ａ，ｃ，ｅ　　2. ａ，ｃ，ｆ　　3. ａ，ｄ，ｅ　　4. ａ，ｄ，ｆ
5. ｂ，ｃ，ｅ　　6. ｂ，ｃ，ｆ　　7. ｂ，ｄ，ｅ　　8. ｂ，ｄ，ｆ

## 地歴公：融合問題 【出題例 大問 7(エ)】

(エ) ――線②に関して，グラフ中の時期におこったできごとについて説明した次のカード及びその説明文について，あとの各問いに答えなさい。

カード
アメリカ合衆国では，テネシー川流域開発公社がつくられ，この公社の事業によって多くのダムが建設されました。公社とは，国家が出資してつくられた法人のことです。

説明文
カードで説明された事業は，公共事業であり，［え］効果をもっています。
この効果をふまえて考えると，この事業は，グラフ中の［お］の時期におこなわれたと考えることができます。

(i) 説明文中の［え］にあてはまる語句を，雇用の語を用いて４字以上８字以内で書きなさい。
(ii) 説明文中の［お］にあてはまる時期を，グラフ中のＡ～Ｄの中から一つ選び，その記号を書きなさい。

### ≪入試に向けて≫

①基本的な語句や知識をしっかり暗記・理解すること。新しく学習した時点で完璧に理解しきること。**入試直前では遅すぎる。**
②用語は単独で覚えるのではなく、他の用語と関連させ、さらに派生させて覚えること。**ただの丸暗記だけでは戦えない。**
③資料やグラフ、表を正確かつ効率的に読み取れるようにすること。**何を問われているのか明確にする。**
③世界史に関する問題、割合に関する問題は近年必出！**世界史は日本史とリンクさせる！割合は概数で考える！**

Heart&Hard
北進ゼミナール